



孝子素談

巻入

大屋 四

A13
4437
5





遠山奇蹟後編 全部 四冊

此書のそとこのほふあるるるるの奇蹟と
 去つた界ふ異類異種をいひ法道よあはし
 年ふふふふふふふふふふ 新美堂 梓

全長

甚尾坂

喜多村

遠山奇蹟後編序

華あり。實らつと。實をとりて書入
 じ。又それきたとてつとつとつと
 ころころつとつとつとつとつとつと
 うれつとつとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつと
 くはつとつとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつと

十二
 記
 記

この花をとりてんや。きよく井は
 無ふそまふ。

高木に改まりし。まれとん日

花清山人
 一

善心寺法後編目録

卷之一

- 才一章 良法
- 才二章 善心の材木を天つきまて
人かきふりぬくたゆ
まけんや。事。
- 才三章 概てしつちを色に下り
秋上り。善心。事
大門建立。事。
- 才四章 門下りけり。秋上り。み付
作方安ふ。自分。法心。事。
- 才五章 むり大門の。事。事
智心。の。事。事。
- 才六章 善心。の。事。事
善心。の。事。
- 才七章 水内。ま。り。橋。と。事。事。

卷之二

- 才八章 善光。の。事。事
善心。の。事。
- 才九章 善心。の。事。事
の。事。
- 才十章 善心。の。事。事
善心。の。事。
- 才十一章 善心。の。事。事
善心。の。事。
- 才十二章 善心。の。事。事
善心。の。事。

善心寺法後編目録

一

卷之三

○才十三章

衣の袴のノアキ
アハセウミの事

○才十四章

内職のムキ

○才十五章

初村のノアキ
アハセウミの事

○才十六章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

○才十七章

ハツゲのノアキ
アハセウミの事

○才十八章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

○才十九章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

卷之四

○才二十章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

○才二十一章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

○才二十二章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

○才二十三章

アハセウミのノアキ
アハセウミの事

ハ上

まこと寺後編目録終

遠山奇談後編卷之一



○才一章

後編

藤小四冊より遠山奇談後編は下敷せしもの
系於本紙も大寺の所再建し付く。うのまこと寺は
あることとけり。まこと寺の同好せしふんをばし
おのれいふこと。いさくの寺統すらしと。まこと寺の
はらふもの。まこと寺のまこと寺のまこと寺の
かかれ失ふこと。まこと寺のまこと寺のまこと寺の
まこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺の
まこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺の
まこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺の
まこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺のまこと寺の

丁れのふらけの金銭と拖りしゆくやん。銭の
びの苦勞と。けりけりのみ月のりと貴。働さ
ゆかりとさぞ。かすむばさぶさ。金銭とさるるも
めと働さし。皆や木のたげりも。威どろ

〇才四章

他々安んふり合ふ事

びー一枚天國（流）流し。又ささむさおく本さ
たふつら。ゆゆと木の神おれのやうに
さぶべー。それとらふらふ。ささむさおく本さ
一枚ふーさびに下たむさる。ささむさおく本さ
ふ。枚をたむさる。光のうちぬきさる

枚をたむさる。にいの隣りもささむ。ほろめさるふ
たれいさのささむさおく。ささむさおく。又枚をた
ても。ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
ありと。ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
枚をたむさる。ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
まけくけ枚のささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
所感さる。一生働とささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
ふらとけむさる。ささむさおく。ささむさおく。ささむさおく
とささむさおく

かく一筋におゆり。至愛なり。まねて知る人かたれば
月とともる時。げんた樹をら一本とて。たはれ
の毎エリ。けしに。割ぞ。けなれども。たはれども。たはれども。
ふりかき。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
おより。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
けし。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
んとすれども。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
まづ。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
つぎ。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
又。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。

と。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
うつに。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
う。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
た。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。
お。たはれども。たはれども。たはれども。たはれども。

るもつげがこれの火おろしは
さぐりおぼろふ末宵ついでに
暮しついでにさぐりさぐり
かにさぐりもさぐりさぐり
うら。うら。のいふもさぐり
ふ海りさぐりさぐりさぐり
ふいさぐりさぐりさぐり
人さぐりさぐりさぐり
あつとさぐりさぐりさぐり
難系。又暮しの火おろし
さぐりさぐりさぐりさぐり

あつとさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり

○才七章

かして万をふさふ一とあり
百をふさふ一とあり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり
さぐりさぐりさぐりさぐり

Omura no



Omura no

+

又甲子年様へ... 甲子年... 洞行... 春... 月と赤ん... 下... ば... 月...

改申印

